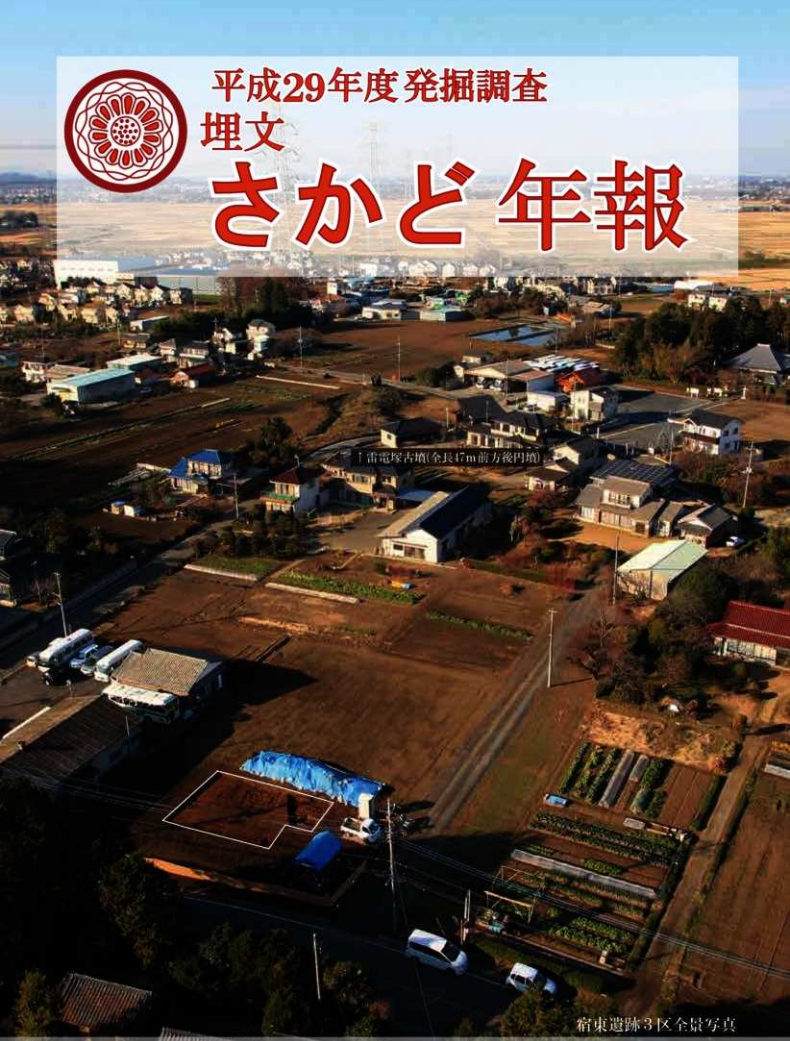
平成29年度発掘調査

埋文

さかど年報



宿東遺跡3区全景写真

坂戸市教育委員会

序 平成29年度坂戸市発掘調査概況

坂戸市は市域の大部分を平坦な台地(坂戸台地・毛呂台地)が占めており、台地の縁辺部には越辺川や高麗川などの中小河川と広大な沖積平野が広がっています。安定した台地と豊かな水源、肥沃な低地に恵まれたこの土地では、いにしえから人々の生活が営まれてきました。そのため、市内には旧石器時代から中近世に至るまでの遺跡が数多く存在しており、現在登録されている遺跡の数は152か所にも及びます。

平成29年度、坂戸市教育委員会では19件(平成28年度からの継続事業も含む)の発掘調査を実施しました。調査理由は住宅の建設が大半を占めており、そのほかの理由としては、工業施設や土地区画整理事業などがあげられます。

近年の調査の傾向として坂戸市の西部、入西地区での調査件数がほかの地域に比べても多く、平成29年度は11件の発掘調査を実施しました。市の東部では小沼地区の宿東遺跡や青木地区の宮町遺跡などで調査を実施し、多くの遺構が発見されました。

作業風景(新田前遺跡11区)

作業風景(明泉遺跡11区)

作業風景(花見塚遺跡16区)

1 西浦（にしうら）遺跡34区2次・39区（坂戸市大字北峰字西浦）

調査期間
34区2次　平成29年4月3日から
平成29年4月10日まで
39区　平成29年9月19日から
平成29年10月2日まで

調査理由　個人住宅建設

発見された遺構と年代
・古墳2基（北峰1号墳、38号墳）
（古墳時代後期）
・溝1条

西浦遺跡は坂戸市西部の毛呂台地東側に位置し、周辺には多くの古墳群が存在しています。遺跡の範囲内には北峰（きたみね）古墳群があり、これまで調査で40基以上の古墳の存在が確認されています。

今回の調査では、平成28年度に引き続き2基の古墳が調査の対象となりました。34区の2次調査では、北峰1号墳（松の木古墳）の周溝（しゅうこう）の一部を検出しました。出土した埴輪（はにわ）や過去の調査事例から1号墳は6世紀中ごろの築造であると推定されます。39区では38号墳の周溝の一部を検出しました。平成28年度の調査とあわせ、周溝のほぼすべてが確認されたことになり、墳丘径約18mの円墳であることが明らかとなりました。

34区2次調査区全景（西から撮影）
周溝の一部を検出。周溝内からは円筒埴輪が出土。

39区調査区全景（東から撮影）
調査区南端で38号墳の周溝を検出した。

北峰1号墳全景（東から撮影）
現存する1号墳墳丘が見える（平成28年度撮影）。

平成28年度調査区全景（空中写真撮影）
古墳3基が密集で発見された。

2 西浦遺跡38区（坂戸市大字北峰字西浦）

調査期間　平成29年4月25日から
　　平成29年5月16日まで

調査理由　個人住宅建設

発見された遺構と年代
- 古墳1基（北峰36号墳）
  （古墳時代後期）
- 溝3条
- ピット1基

38区は西浦遺跡の南西部に位置し、付近では帆立貝式古墳1基、円墳7基の計8基の古墳が密集した状態で発見されました（西浦遺跡27・28・29・30・36・37区）。今回の調査では、そのうちの1基である北峰36号墳の周溝北側が調査対象となりました。

36号墳は墳丘径約14mの円墳で、周溝の堆積土中からは埴輪片が数点出土しました。平成28年度の調査では、周溝内から人物埴輪を含む多数の埴輪が出土しており、これらの出土遺物から36号墳は6世紀後半に築造された古墳であると推定されます。

帆立貝式古墳・・・前方後円墳に比べ短い前方部を持つ古墳で、ホタテの貝殻のような形状をしている。

38区調査区全景（東から撮影）
奥に36号墳の周溝が見える。

北峰36号墳全景（29区）（北から撮影）
29区では周溝の約1/4を調査した。（平成28年度撮影）

周辺調査区略図
赤い部分が今回調査を実施した部分

36号墳からは複数の人物埴輪が出土しており古墳群の様相を考える上での重要な手がかりとなった。

出土した人物埴輪

3 新田前遺跡11区（坂戸市大字塚越字明泉）

調査期間　平成29年5月22日から
　　平成29年6月12日まで

調査理由　個人住宅建設

発見された遺構と年代
- 竪穴住居2軒
  （古墳時代中期・平安時代）
- 溝1条
- ピット6基

新田前遺跡は坂戸台地の北東縁辺部に位置し、一帯は古墳時代から奈良・平安時代にかけての集落遺跡が連綿と続くエリアとなっています。今回発見された1号住居は一辺約7mを測り、一部が溝によって破壊されています。カマドや柱穴などといった住居に付帯する施設は確認できませんでしたが、硬く締まった床面付近からは多数の土師器が出土しました。遺物の特徴から、住居は古墳時代中期ごろのものと考えられます。住居を破壊する1号溝は幅3.6m、深さは1.8mで、薬研状の断面形をしています。溝の上層からは鉄鏃1点が出土しました。
薬研状・・・薬を作るときに使用した薬研のように、断面形がV字状になっていること。

1号住居全景（南から撮影）
住居跡は1辺約7mあり、一部は調査区外に伸びる。

調査区全景（南から撮影）
複数の遺構が切りあって発見された。

土師器甕

土師器坏

1号住居出土遺物
床面付近からは完形に近い土師器が複数出土した。

1号溝断面（南から撮影）
溝上層からは、先が二股になった鉄鏃（雁股鏃）が出土した。

4 宮ノ前遺跡12区（坂戸市大字片柳字中村）

調査期間　平成29年6月5日から
　　平成29年6月20日まで

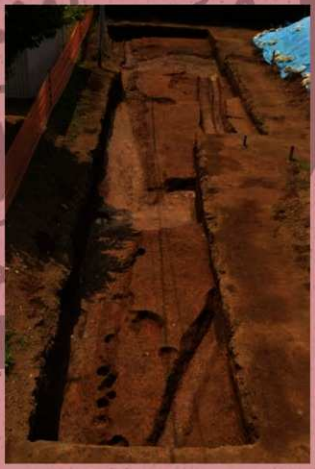
調査理由　土地区画整理事業

発見された遺構と年代
- 竪穴住居1軒（平安時代）
- 溝8条
- 土坑2基
- ピット3基

宮ノ前遺跡は、坂戸市中央部の坂戸台地縁辺部に立地しており、弥生時代から中近世に至るまでの幅広い年代の遺構が濃密に分布しています。12区では平成28年度に引き続き、土地区画整理事業に伴う発掘調査を実施し、多数の遺構を発見しました。検出された溝は、いずれも近世後半段階まで使用されていたと考えられ、溝の縁に柱穴列が並んでいるものや、溝の合流部分の幅が意図的に狭められた箇所などが発見されました。これらは、溝の用途や構造を解明するための重要な材料であるといえます。また、溝や土坑内からは、当時の生活で使用されていたとみられる陶磁器が多数出土しました。

2号溝（西から撮影）
合流部分で溝幅が狭まっており、中央にはピットがある。

出土した陶磁器
溝や土坑から多数の陶磁器が出土した。



調査区全景（北から撮影）
複数の溝と、柱穴列が確認できる。

5 花影（はなかげ）遺跡27・28区（坂戸市浅羽野一丁目）

調査期間	27区	平成29年7月3日から 平成29年7月11日まで
	28区	平成29年10月2日から 平成29年10月11日まで
調査理由	27区	個人住宅建設
	28区	建売住宅建設

発見された遺構と年代
・竪穴住居1軒（平安時代）
・ピット1基

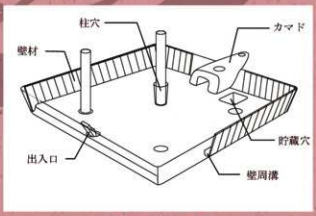
花影遺跡は坂戸台地西部に位置しており、遺跡西側の低地部には高麗川が流れています。27区と28区は、台地のやや内陸部に位置しており、周辺では平安時代の住居が点在するように発見されています。今回の調査では両調査区にまたがるように1軒の住居が発見されました。

住居は一辺約3.5mの隅丸正方形で、カマドは東側に設けられています。西壁際では出入口の足場板を据えていたと思われる浅いピット1基が確認されました。住居の壁際には壁周溝（住居の壁材などを据えるための溝）がめぐっています。カマドはほぼ調査区外のため詳細は不明ですが、調査区の壁面で一部を確認することができました。

27区1号住居全景（北から撮影）
住居の約半分を検出。西壁際にピットがある。

28区1号住居全景（南西から撮影）
住居の約1/4を確認。一部破壊されている。

遺物出土状況
遺物は須恵器甕の破片等がわずかに出土した。



竪穴住居の構造
この上に屋根材が乗り半地下式の構造となる。

6 勝呂（すぐろ）1号墳（坂戸市大字石井字下石井・字勝呂）

調査期間　平成29年8月7日から
　　平成29年9月4日まで

調査理由　保存目的の範囲内容確認調査

発見された遺構と年代
　勝呂1号墳（古墳時代終末期）
　竪穴住居1軒（弥生時代後期）

勝呂1号墳（勝呂神社古墳）は墳丘径41.3mを測る坂戸市屈指の大型円墳です。周辺には雷電塚（らいでんづか）古墳、胴山（どうやま）古墳など大型の前方後円墳や、勝呂廃寺、東山道武蔵路（とうさんどうむさしじ）といった古代の遺跡が集中しており、坂戸の古代史を考えるうえで重要な地域となっています。

1号墳の調査は駒澤大学と合同で平成26年から実施しており、26・27年には墳丘の測量調査、28・29年は内容確認のためのトレンチ（溝状に掘削する）調査を実施しました。

今回の調査では、墳丘と周溝の間にテラス状の平坦面が存在していたことや、周溝の幅が約7m以上あること、古墳に先行する住居の存在などが新たに確認されました。

勝呂神社古墳周辺（空中写真撮影）
周辺には勝呂廃寺や東山道武蔵路（推定）が存在する。

遺物出土状況
トレンチ内からは土師器坏が出土した。

作業風景
トレンチの埋め戻し作業を行っている。

7 花見塚遺跡16区（坂戸市大字小山字月木）

調査期間　平成29年8月21日から
　　平成29年9月14日まで

調査理由　個人住宅建設

発見された遺構と年代
- 竪穴住居1軒（古墳時代後期）
- 道路状遺構1条
- 溝1条
- 土坑2基
- ピット1基

花見塚遺跡は坂戸市西部、毛呂台地上に位置し、長岡遺跡や稲荷森遺跡などといった大規模な集落遺跡と隣接しています。16区では、古墳時代の住居を中心に多数の遺構が発見されました。

1号住居は一辺約5.5mの隅丸正方形で、4本の柱穴と貯蔵穴（器物を貯蔵しておく穴）が確認できました。床面付近では完形に近い状態の土師器が複数発見されました。出土遺物の年代から住居は6世紀後半のものであると考えられます。

道路状遺構は、幅約1m、確認された長さは11mを測ります。構造は、皿状にくぼんだ部分に小礫が敷き詰められていました。構築・使用時期やどこに向かうのかなど、詳細の多くは不明です。

1号住居跡全景（西から撮影）
4本の柱穴と貯蔵穴が見える。

1号住居跡出土遺物
土師器坏などがまとまって出土した。

1号道路状遺構（西から撮影）
東西に伸びる。隣接地でも同様の遺構が見つかっている。

8 中原遺跡11～14区（坂戸市大字堀込字番匠ヶ谷戸）

調査期間　平成29年10月24日から
　　平成29年11月21日まで

調査理由　個人住宅建設

発見された遺構と年代

・溝3条

中原遺跡は毛呂台地上に位置する遺跡で、中世に堀込氏が館を構えていたといわれています。実際に発掘調査でも、中世のものとみられる堀や土塁が発見されており、館の存在をうかがうことができます。中原遺跡11～14区では、溝3条が発見されました。一番長く確認できた1号溝は総延長が28mで溝幅は約2m、深さは0.5～0.8mほどあります。V字状の断面形をしており、覆土の中層と下層部分は踏みしめられたように土が硬化していました。このことから一時的に道として利用されていた可能性も考えられます。今回の調査で発見された溝が館に関連するものかどうかについては不明ですが、今後調査事例を重ねていくことで溝の全体像が明らかとなってくるかもしれません。

1号溝（南から撮影）
南北に延び、調査区の北側で緩い曲線を描く。

2号溝（西から撮影）
東西に走行し、きれいなV字状の断面をしている。

14区全景写真（西から撮影）
溝1条が確認された。他の溝に比べて浅い。

9 宿東遺跡３区（坂戸市大字小沼字田島）

調査期間　平成29年11月27日から
　　平成29年12月12日まで

調査理由　個人住宅建設

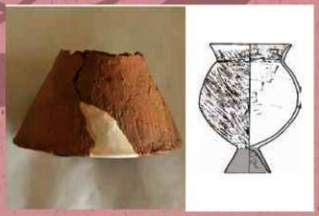
発見された遺構と年代
・竪穴住居2軒（古墳時代前期）
・土坑3基
・ピット2基

宿東遺跡は、坂戸市東部の小沼地区にある遺跡で近隣には前方後円墳である雷電塚古墳（古墳時代後期）が位置しています。今回の調査では、古墳時代前期の住居が2軒発見されました。いずれも残存状況が悪く、遺物の出土量もわずかでしたが、それぞれの住居内からは炉跡が発見されました。炉は、古墳時代前期ごろまで煮炊きをする場として使用されており、そこでは調理器具として台付甕が使用されます。台付甕は甕の底部に台がついているため、通常の甕に比べ熱効率が上がるといわれています。1号住居からは台付甕の破片が出土しており、住居内で炉を使用した調理が行われていたことが想像できます。

1号住居全景（南から撮影）
住居のほぼ中央に炉がある。

2号住居（南から撮影）
1号住居に比べ残存状況が不良である。

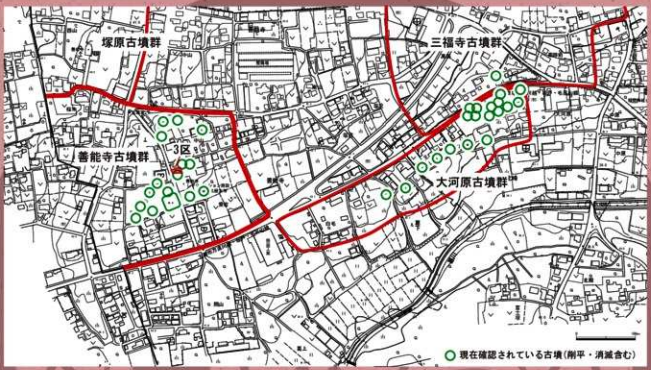
1号住居炉跡
赤く焼けた土が散らばっている。



1号住居跡出土台付甕
台付甕の台の部分（右図：長岡遺跡出土台付甕）

10 善能寺古墳群3区（坂戸市大字善能寺字愛宕）

調査期間	平成29年10月18日から 平成29年11月21日まで	発見された遺構と年代 ・古墳1基（善能寺5号墳） ・埴輪棺墓1基
調査理由	個人住宅建設	



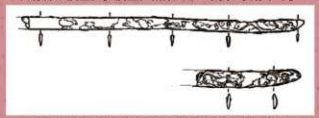
善能寺古墳群は、毛呂台地上に位置し、周囲には大河原古墳群や塚原古墳群などが近接して分布しています。現在までに16基の古墳が確認されており、古墳のつくられた時期は、古いものは5世紀から新しいものは7世紀までと年代に幅があります。

善能寺5号墳は直径約20mの円墳で、昭和48年に墳丘部分や周溝の一部が発掘調査されています。当時の調査では、墳丘の中央部付近から長方形の粘土槨（埋葬施設）1基が発見されており、粘土槨内から大刀と鉄剣が出土しました。また、周溝内から多数の円筒埴輪のほか、土師器の壺が発見されています。

今回の調査では古墳の周溝北側部分が対象となりました。確認された周溝は幅約2.5m、深さは約0.8mを測り、周溝内には墳丘から落下したと思われる円筒埴輪と、河原石が多数発見され、河原石は葺石（墳丘を覆っていた石）の可能性があります。出土遺物から、古墳の築造年代は5世紀末ごろと推定されます。

調査区周辺（空中写真撮影）

白線部が調査区。調査区南東には1号墳が現存する。



善能寺5号墳出土遺物（昭和48年調査時出土）

調査区全景(東から撮影)

復元作業を終えた円筒埴輪

遺物出土状況

周溝内からは多数の遺物が出土しました。大半は周溝の埋没土上層から出土しており、円筒埴輪(写真上)だけではなく、完形に近い土師器の坏(写真下)などが発見されました。

出土した埴輪は一見白く見えますが、部分的に赤く塗られていたことが分かります。

発見された埴輪棺墓の概略図

埴輪棺墓

今回の調査では、5号墳周溝の一部を切るようにして掘り込まれた楕円形の土坑1基が発見されました。土坑の中には円筒埴輪1個体がほぼ完全な状態で横倒しに埋納されており、埴輪の両側については河原石で閉塞(へいそく)されたような状態でした。埴輪の中からは、副葬品などは出土しませんでしたが、土坑内の状況などから円筒埴輪を棺(ひつぎ)として利用した墓であると推定されます。このような墓を「埴輪棺墓(はにわかんぼ)」といいます。

11 宮町遺跡10区（坂戸市大字青木字宮町）

調査期間　平成29年12月18日から
　　平成30年1月30日まで

調理由　個人住宅建設

発見された遺構と年代
・竪穴住居6軒（平安時代）
・掘立柱建物2棟
・溝2条　　・井戸1基
・土坑7基　　・ピット25基

宮町遺跡は、坂戸市東部に位置しており、周辺にある住吉中学校遺跡や林際遺跡などとともに、東山道武蔵路付近に展開した奈良・平安時代の拠点的な集落であったと考えられています。過去の調査では計量器として使用されたと考えられるコップ形須恵器や、石製や鉄製の「おもり」などが出土しており、宮町遺跡の周辺には古代の「市」が存在していた可能性が指摘されています。10区では、隣接区同様に平安時代の住居・掘立柱建物を中心とした多数の遺構が発見されました。1・2号住居からは多数の須恵器や、鉄製品などが発見されており、集落での豊かな生活風景が思い浮かびます。

調査区全景（空中写真撮影）
多数の遺構が重なり合うように発見された。

1号住居（北西から撮影）
南東にカマドを持つ。須恵器や鉄製品が出土した。

2号住居（西から撮影）
やや不正形な形をしている。

2号住居遺物出土状況（北から撮影）
カマド付近では須恵器がまとまって出土した。

12 明泉（みょうせん）遺跡11区（坂戸市大字塚越字明泉）

調査期間　平成30年2月26日から
　　平成30年3月27日まで

調査理由　個人住宅建設

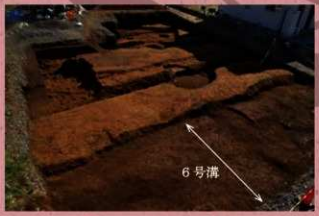
発見された遺構と年代
・竪穴住居2軒
　（古墳時代中期・奈良時代）
・溝6条

明泉遺跡は、4ページで紹介した新田前遺跡の東側に広がる遺跡です。今回の調査では、住居2軒などが発見されました。1号住居は東側にカマド、南東コーナー付近に貯蔵穴が設けられていました。貯蔵穴からは、完形の状態の甑（こしき）（蒸し器として使用された土器）と坏が見つかったほか、鏡を模した祭祀具と思われる石製模造品（有孔円板（ゆうこうえんばん））1点が出土しました。

また、今回の調査では調査区の北端で溝幅が推定6m、深さが2mを超える巨大な溝が発見されました。この溝はほかの調査区でも確認されていますが、開削時期や用途などは明らかになっていません。

1号住居全景（西から撮影）
南東コーナーに貯蔵穴が見える。

貯蔵穴遺物出土状況
完形の状態で出土した。（右写真は有孔円板（直径約3.5cm））



調査区全景（北から撮影）
手前の一段低い部分が6号溝。東西に走行する。

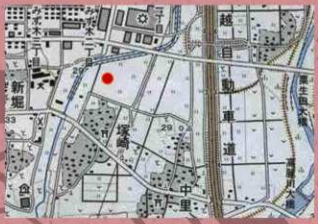
6号溝断面
深さは2m以上あり、はしごがないと上り下りができなかった。

13 下田（しもだ）遺跡５区（坂戸市入西東部土地区画整理事業地内）

調査期間　平成30年1月5日から
　　平成30年5月31日まで

調査理由　倉庫建設

発見された遺構と年代
・竪穴住居20軒（古墳時代前期・後期）
・掘立柱建物12棟
・溝21条
・土坑75基　・ピット828基



下田遺跡は坂戸市の西部、高麗川左岸の沖積地に広がる遺跡です。坂戸西スマートインターチェンジ周辺開発に伴う発掘調査で、数多くの遺構が検出されています。5区では、古墳時代の遺構が多数発見されました。古墳時代前期の住居は1辺が8mを超える大型のものが2軒発見されました。古墳時代後期の遺構をみると、長い煙道（えんどう）のカマドを持つ住居が複数発見されており、下田遺跡を含めた周辺集落の特色の一つと言えます。

調査区の東側では、「神社遺構」と考えられる特徴的な柱配置をした建物が1棟が発見されました。出土遺物から、神社遺構の年代は7世紀代にまでさかのぼる可能性もあります。

調査区全景（南から撮影）
広大な面積が調査対象となった。

神社遺構
周囲にはコの字状に溝がめぐり、特徴的な柱の配置をしている。

12号住居（南から撮影）
カマドが北壁に設けられている。

12号住居カマド
カマドの煙道は長くトンネルのようになっている。